

欧州特許庁と米国特許商標庁、協力特許分類「CPC」スキームを開始

2013年1月7日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）は、1月2日、同庁と米国特許商標庁（USPTO）とで、特許文献のための国際的な分類システムである協力特許分類（Cooperative Patent Classification : CPC）スキームを開始した旨、同日にプレスリリースを行った。本プレスリリースによると、CPCスキームについて、技術主題の詳細説明を含む「CPCの定義（CPC definitions）」が各CPCサブクラスについて提供され、定期的に更新される予定であり、2013年の早い時期に、利用者向けの通信学習プログラムが利用可能となるとされている。

本プレスリリースは、CPCスキームについて、特に特許文献のための、共通の、国際的に互換性のある分類システムを構築するための努力を通じたEPOとUSPTOとの相互協力関係の成果であり、当該分類システムは両庁での特許付与プロセスにおいて利用されることになることと報じた。また、CPCスキームは両庁の最良の分類実務を組み入れた野心的な調和の成果物（an ambitious harmonization product）であるとした。

本プレスリリースによると、バティステリEPO長官は「CPCスキームの開始は、特許制度の国際的な水準でのより偉大な調和を目指す努力における偉大な躍進を意味するものであり、世界経済の利益や、品質ベースの特許制度を通じた効果的な特許付与を保障する鍵となる特許制度の効率向上に向けた偉大な一歩である」と評した。また、カッポスUSPTO長官は、「本日、CPCスキームを公式に開始できたことはこの上なく素晴らしい成果であり、両庁が協力の協力に基づく、世界のイノベーションを担うコミュニティの多大な利益となる二庁間の分類システムを作り上げる努力を物語っている」、「CPCスキームは、知財庁間の統合されたネットワークを通じた作業の活用能力を向上させることによって特許制度調和の努力を発展させるであろう」と強調した。

EPOとUSPTOは、2010年10月以来、CPCスキームを協働して構築してきたところ、欧州特許分類（ECLA）を基にして当初に創作された約25万の分類項目を含み、両庁の最良の分類実務を組み入れ、同スキームを通じて、今や世界中の特許審査官及び制度利用者が同一の分類により整理された特許文献集合にアクセスすることによって特許文献を検索できるようになったとしつつ、これによって先行技術文献調査をより効率的に行うのみならず、不必要な重複作業の削減を目指したワークシェアリングの取組を通じて効率性を向上させることができると、本プレスリリースは報じている。

— EPOによる本プレスリリースは、以下参照 —

[EPO and USPTO launch Cooperative Patent Classification](#)

— CPC ウェブサイトは、以下参照 —

[Cooperative Patent Classification - European Patent Office, United States Patent Trademark Office -](#)

— 各技術分野におけるCPCスキーム及び定義は、以下参照 —

[CPC scheme and CPC definitions](#)

— ECLAとCPCとIPCとのコンコーダンスは、以下参照 —

[CPC Concordances](#)

— EPOがCPCウェブサイトにおいて公表したCPCの概要に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 —

[欧州特許庁、協力特許分類「CPC」の概要を公表（2012年10月1日）（PDF）](#)

— CPC ウェブサイトの開設に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 —

[欧州特許庁、米国特許商標庁と共通特許分類のウェブサイトを開設（2011年11月6日）（PDF）](#)

(以上)